

令和5年度 事業報告書

社会福祉法人しあわせの郷

令和5年度 社会福祉法人しあわせの郷 事業報告

経営理念と基本方針

経営理念

「地域のお年寄りの方が生きがいを持って、安心して暮らすことのできる地域に開かれた施設づくりを通じ、役職員が一丸となって介護を要する人のために、より良いサービスを提供します。」

基本方針

- ・利用者の人権と個性を尊重し、心のこもった介護で豊かな暮らしを支えます
- ・地域との連携を大切にして信頼される施設づくりに努め、地域福祉に貢献します
- ・職員の育成指導並びに福利厚生の実施を図り、安心して働ける環境づくりに努めます
- ・健全かつ活力のある経営に努め、安定した施設運営を目指します

運営方針

社会福祉法人としての役割を認識して、運営を長期的に安定させる

- ・地域のより多くの方にご利用いただくため稼働率を高め安定させる
- ・規程やルールを再構築し、運営の地盤を強固にして普遍化させる
- ・安定したサービスを提供するため、介護・看護人材の定着と安定を図る

1、事業概要

①法人の概要

主たる事務所の所在地	電話番号	代表者氏名
岡山県備前市三石2791-1	0869-62-2717	徳永 憲威
事業開始年月日		設立登記年月日
平成 14 年 4 月 1 日		平成 12 年 10 月 12 日

②法人の行う事業

社会福祉事業	施設種別	名称	定員
第一種社会福祉事業	介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム 深谷荘	70名
		地域密着型 特別養護老人ホーム深谷荘	20名
第2種社会福祉事業	短期入所生活介護	ショートステイ深谷荘	6名
	地域密着型通所介護	デイサービスセンターバンビ	18名
公益事業	居宅介護支援事業所	深谷荘居宅介護支援事業所	—

③登記の状況

登記事項	登記年月日
1 資産の総額 金5億5661万9086円	令和5年6月30日
(役員に関する事項) 兵庫県たつの市揖保町門前369番地1 理事長 徳永 憲威	令和5年6月30日

2、理事会開催状況

開催 年月日	出席者 ／定数	議案	欠席者氏名	出席監事名
第1回 令和5年 6月8日(木)	6／6	審議事項 第1号議案 令和4年度 事業報告(案)について 第2号議案 令和4年度 決算報告ならびに監事監査報告について 第3号議案 個人情報保護規程(案)について 第4号議案 個人データの安全管理措置に関する規程(案)について 第5号議案 漏えい事案対応規程(案)について 第6号議案 個人情報法人内監査規程(案)について 第7号議案 個人データの取扱いを委託する場合の運用規程(案)について 第8号議案 個人情報保護教育規程(案)について 第9号議案 外部委託管理規程(案)について 第10号議案 特定個人情報取扱規程(案)について 第11号議案 退職金規程(案)について 第12号議案 役員報酬規程改定(案)について 第13号議案 就業規則(常勤職員)改定(案)について 第14号議案 就業規則(準職員)改定(案)について 第15号議案 給与規程改定(案)について 第16号議案 定款細則改定(案)について 第17号議案 規程等管理規程(別表)改定について 第18号議案 地域密着型特別養護老人ホームの短期入所生活介護新規指定に伴う運営規程改定(案)について 第19号議案 理事・監事の任期満了に伴う候補者(案)について 第20号議案 定時評議員会の日時、場所、議案等について 第21号議案 第2回理事会の開催について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	なし	立川茂 西丸将史
第2回 令和5年 6月24日 (土)	6／6	審議事項 第1号議案 理事の選任について	瀬戸 雅嗣 松尾 太郎 書面決議	立川 茂 西丸将史

第3回 令和5年 10月20日 (金) みなし決議	6/6	審議事項 第1号議案 特別養護老人ホーム深谷荘（地域密着）における災害時非常電源確保のための発電機の設置について 第2号議案 デイサービスバンビの地域密着型通所介護への移行について	なし	確認書
第4回 令和5年 11月2日 (木)	4/6	審議事項 第1号議案 特別養護老人ホーム深谷荘（地域密着）における災害時非常電源確保のための発電機の設置業者の決定について	瀬戸 雅嗣 松尾 太郎 書面決議	西丸 将史
第5回 令和5年 12月15日 (金)	5/6	第1号議案 令和5年度第1次補正予算について 第2号議案 特別養護老人ホーム深谷荘（地域密着）における災害時非常電源確保のための発電機の入札結果及び契約について 第3号議案 第2回評議員会の開催について	松尾 太郎	立川 茂 西丸将史
第6回 令和6年 3月15日 (金)	4/6	第1号議案 令和5年度 第2次補正予算（案）について 第2号議案 令和6年度 事業計画（案）について 第3号議案 令和6年度 収支予算（案）について 第4号議案 就業規則（常勤職員）改定（案）について 第5号議案 就業規則（準職員）改定（案）について 第6号議案 給与規程改定（案）について 第7号議案 経理規程改定（案）に伴う小口現金取扱いに関する細則（案）について 第8号議案 評議員会の日時、場所、議案等について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	山形 明 松尾 太郎 書面決議	立川 茂 西丸将史

3、評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 /定数	議案	欠席者氏名	出席監事名
第1回 令和5年 6月23日 (金)	6/7	第1号議案 令和4年度 事業報告（案）について 第2号議案 令和4年度 決算報告ならびに監事監査報告について 第3号議案 役員報酬規程改定（案）について	坂越 大輔 書面決議	西丸 将史

		第4号議案 理事・監事の任期満了に伴う選任（案）について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について		
第2回 令和5年 12月23日 (土)	6/7	第1号議案 令和5年度第1次補正予算（案）について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	和田 吉男	立川 茂 西丸 将史
第3回 令和6年 3月23日 (土) みなし決議	7/7	第1号議案 令和5年度第2次補正予算（案）について 第2号議案 令和6年度事業計画（案）について 第3号議案 令和6年度収支予算（案）について	なし	立川 茂 西丸 将史

4、令和5年度事業運営の概要

収入面については法人全体で令和4年度412,478千円から令和5年度は436,375千円となり23,897千円増加した。健全な収益構造を構築するため利用率の確保を行い、特養部門は入院者の増加に伴い空床を利用したショートステイ利用で稼働率を確保できた。しかしデイサービス部門では新規利用者確保に努めたが、結果として稼働率が低い状況を改善することはできなかった。

一昨年の入所系の入院原因であった誤嚥性肺炎や尿路感染については、研修、生活環境、介護方法等で減少したものの、季節性の体調不良による入院者により詳細な計画によるショートステイの確保を行った。入院者の療養状況を詳細に把握した結果、病院の入院期間の長期化が抑制され、早期退院ができる方が多くなっている。入院の一因でもある健康管理については嘱託医や看護職員による健康管理のありかたについて課題が残っている。

取り組みの成果により令和5年6月以降の稼働率が目標に近い水準であり、職員体制についても稼働率の上昇に合わせた人員確保を行った。外国人材等、新人職員の育成にも時間を要しているが、介護現場が混乱することもなく安定傾向が継続している。

デイサービス部門については年度当初の1日平均利用10.4名だったが、徐々に低迷し令和4年12月に地域密着となり、定員を19名から18名に変更し、基本報酬アップと経費削減を行ったが、令和6年3月末時点で1日平均利用9.4名となり下降。再起をかけて地域の方に多く利用していただく「備前モデル」をコンセプトとして次年度に向けたサービス作りを開始し、利用率の向上に向けて検討を始めている。

支出面については基準人員が安定的に確保できていることで、人件費が予算以上となることが多かったことに加え、光熱費の高騰の影響が大きく予算に対して売り上げの増加で収益を補完するまでには至っていない。結果として当初の目標であった「すべての事業が安定的に稼働する」ということにならなかった。安定した収益構造となるには大きな課題が残っている。

人材確保については日本人の介護職員の確保が難しいが、紹介業者ルートで介護福祉士を

1名、外国人材に関してはフィリピンから特定技能1号として召喚し、4月に3名、9月2名の合計5名を採用し年度末時点で仕事に慣れて戦力となっている。又、認知症介護基礎研修が必須となったため、フィリピン人特定技能1号の5名にとっては難しい課題であったが終了することができた。ベトナム人材については3名中1名が介護福祉士、特定技能に移行している2名が介護福祉士を受験し1名が合格となり、現在のところ3名共に就労を継続している。

職員研修については動画研修を基本として6割の職員が受講することができた。しかし受講率が減少傾向のため、更なる工夫による受講率アップが課題となっている。

稼働率の上昇と共に施設部門に事務所職員も動員して応援体制を組んでいたが、フィリピン人材の増員により12月以降の応援体制は不要となった。又、事務職員や生活相談員の退職により事務部門の業務が不安定となったが、年度末時点では事務所全体で体制を再構築したことで大きな混乱にはなっていない。

今年度は入所系の稼働率が目標付近で推移し、それに合わせた人材確保や人材育成もある程度完了した一方、デイサービスの稼働率低迷による課題を残した。すでに課題についての検討も動き出しており、次年度に向けての明るい兆しとなっている。

5、法人全体としての取り組み

① 地域密着型特別養護老人ホームの空床利用短期入所新規申請

これまで地域密着型特別養護老人ホームでは空床利用の短期入所が利用できず、ご入院等で空床となったまま稼働できなかつたため、岡山県に確認し新規申請することができたため、令和5年8月より運用開始した。

② デイサービスバンビの地域密着型新規申請

通常規模型から地域に根差した運営であったため、地域密着型への変更、新規申請を行い、令和5年12月から定員18名で再出発した。

③ 見守り支援機器の導入

業務効率化と事故防止のため、令和6年2月、従来型特養に計7台の見守り支援機器を導入し、訪室回数の減少と事故を未然に防ぐ取り組みに寄与している。

④ 災害時対策

3日以上の上電があつても発電能力が見込まれる災害用自家発電機を導入し、施設全体のBCPの一環として災害時に最低限の電源が確保できるようになった。又、非常食をストックローテーション方式で保存できる総菜を3日分確保し、災害用非常食を購入することなく定期的に入れ替えている。

⑤ 出勤・退勤のデジタル化

出勤・退勤のタイムカード管理からデータ管理へと移行し、将来的には個々の職員が管理できるようにする環境の基礎を整備した。

⑥ 外国人材の獲得

フィリピン本国から召還する方法で特定技能1号の介護人材を令和4年4月に3名、9月に2名を獲得し、すでに介護現場の戦力として活躍している。
ベトナムから技能実習生として3名来日している人材は、すでに介護福祉士1名、2名は実務者研修終了し1名は本年度合格することができた。

⑦ フードバンクの取り組み

備前市内の社会福祉法人と共同で「ささえあい福祉ネットワーク備前」を立ち上げ、生活困窮者に施設の備蓄食料の無償提供を行い、必要に応じて困りごとの相談ができる活動を継続している。

6、委員会活動

① 内部統制・コンプライアンス委員会

各事業の運営状況を定期的に自主点検し、適正運営の確認を行った。本年度はユニット型特養、デイサービスの自主点検を行い適正運営に向けて再認識した。
ハラスメント対策についてはリーダー職以上が常時監視し、傾向に基づいて研修に生かしている。
本年度の法人、デイサービス、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所の運営指導で指摘を受けることなく運営できている。

② 虐待防止委員会

毎月の虐待防止アンケート、役職員が参加する会議からの情報収集により対策を検討し、傾向に基づいて研修に連動するように取り組んでいる。不適切ケアの認識を高め、虐待につながりかねない状況を未然に対策を行うことで、介護職員の不適切ケアの認識が向上してきている。
稼働率の上昇で多忙になっており、ストレスも増える状況の中、介護福祉士の割合が増加していること、不適切な介護の共通認識ができてきていること、アンケートで毎月の認識ができること等で適切ケアの認識が深まり、介護サービスを提供できている。

③ 感染予防対策委員会

毎月の全体会議時に感染症情報の共有と施設での方針や対策を検討している。新型コロナウイルスも5類となり、感染対策強化で施設が閉鎖的になった以前の状況を取り戻し、面会の完全開放、行事の再開等で施設の社会化が取り戻せるよう取り組んでいる。
特に面会についてはご家族もとても喜ばれている。

④ 事故防止委員会

毎月各部門の担当者とヒヤリハット、事故の対策と施設の方針を検討している。目に見えて事故件数は減少していないものの、業務改善に向けた取り組みを確認し、改善を行っていく視点が醸成されている。

⑤ 食生活委員会

感染症で開催頻度が少なかったが、生活に合わせた食事提供について随時委託業者を含めた検討を行っている。本年度は委託業者の協力で日常で使用する食材を活用して3日分の備蓄食料をストックローテーション方式で確保することができた。

又、日々の食事提供前の検食の感想に対して委託業者の改善につながるよう利用者に喜ばれる食事提供を日々検討している。

⑥ 研修委員会

前年度の研修に基づいて体系化しているため、開催頻度は少なかったものの、研修を受講する職員割合は6割程度となっている。研修受講割合を高めることで共通認識をもち、その評価を研修記録や委員会等で把握することで研修内容の評価をしつつ、その年の傾向に合致した研修内容を行っている。新たにハラスメント対策をプログラムに追加した。予定していた動画研修業者への登録は、PC環境やインターネット環境の整備ができず、次年度の検討となった。

・法人内研修実施内容

実施月	研修内容	概要	実施方法	参加人数
5月	認知症研修	法人の経営理念と基本方針、認知症の定義・種類、BPSD対応	動画研修	27名
5月	感染症研修	手洗いの洗い残しのチェック	実技	43名
7月	ハラスメント研修	ハラスメントに対する基本方針、基本的な考え方	動画研修	35名
8月	事故防止研修	リスク事故に対する考え方、事故に対する考察	動画研修	39名
10月	感染症研修	新型コロナウイルス感染症対応研修	動画研修	39名
R6.1月	事故防止研修	ヒヤリの書き方、話し合い・考え方のポイント、事故を防ぐ方法	動画研修	35名
2月	虐待防止研修 身体拘束廃止	不適切ケア・高齢者虐待防止・身体拘束廃止	動画研修	34名
3月	コンプライアンス・身体拘束廃止研修	経営理念基本方針、コンプライアンスの意味、職員の守るべき法令、身体拘束廃止・ハラスメントとは	動画研修	36名

7、感染症対策

新型コロナウイルスが5類となったが、基本的な感染対策を継続しマスク着用も継続している。

- ①全職員を対象とした出勤前、出勤後の検温、健康チェック
- ②マスクの着用と手洗いの励行
- ③感染症マニュアルを中心とした基本研修の実施
- ④事業継続計画に基づいた研修・訓練計画の実施

8、防災計画

- ①自然災害発生時の事業継続計画（BCP）の策定と訓練
- ②非常時の備蓄食料3日分の確保と管理方法の整備
委託業者の日常的に使用する食料を3日分備蓄している。
- ③非常電源の確保
ユニット型特養の非常電源として3日以上容量があるガス発電機を設置できた。
全館でも最低限の電源を賄うことが期待できる。

以上